



調印式の様子

# インドネシアに日本の透析医療を 偕行会グループが 透析医療技術提供の覚書を締結

名古屋共立病院（名古屋市中川区）などを運営する偕行会グループは、二〇一六年十二月十五日、名古屋共立病院外来棟五階研修室において、インドネシアの南スラウエシ州パレパレ市と「透析医療技術提供に関する覚書 調印式」を行い、偕行会グループ川原弘久会長とパレパレ市モハマッド・タウファン・パウエ市長による覚書を交換した。これにより、透析にとって最も重要である透析用の水の水质改善技術を提供するほか、

透析患者に有効な運動療法や栄養療法の指導も行っていく。また、透析用のコンソール三台をパレパレ市のアンディ・マカサウ総合病院に寄贈。偕行会がインドネシアの病院と医療技術提供に関する覚書を交わすのは初めてのこと。偕行会グループは、急性期だけでなく、予防、リハビリ、介護、在宅ケアなど、幅広い地域ニーズに応え様々な医療・療養サービスを提供している。偕行会がパレパレ市で透析用水の水质調査を実施したところ、水処理過程の最後の配管に問題があることを確認。独自のフィルターを使用して水质改善を努める。

パレパレ市は人口一三万人（二〇一〇年）の都市で、一八年に南スラウエシ州で最大級となる一〇〇〇床規模の市営病院を開院する予定があり、既に開始されている社会保障制度には人工透析も保険適用されており、日本の技術を導入して、患者を呼び込みたい考えがある。

インドネシアでは、間食をとることが多く、これが糖尿病患者増につながっている。また透析室では透析機器の衛生管理も問題視されている。

この日交わされた覚書では、医療スタッフを現地の病院に派遣し、透析液を清潔に保つ方法や糖尿病患者への運動療法等、日本式の透析医療技術を現地スタッフに指導していく。

モハマッド・タウファン・パウエ市長は、「偕行会の技術で、パレパレ市をインドネシアで一番の医療のまちにしたい」と述べ、川原会長は、「偕行会のノウハウを活用いただけることを名誉に思いますが、必ず役に立てると信じている」と語った。